

Title	資格制度の変遷 - 資格インフレーションとその意味について -
Sub Title	
Author	伊藤素也(Itou, Motoya) 高木晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1060号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1060

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

伊藤 素也

主査 高木 晴夫

副査 関本 昌秀

伏見多美雄

所属

高木 晴夫 研究室

資格制度の変遷

—資格インフレーションとその意味について—

わが国の企業の人事制度において、資格制度は従業員の処遇を定める基準である。しかし、日本的な経営形態のなかで、資格制度は単なる処遇の準以上の役割を果たしてきた。昇格は昇給のみならず、企業組織内序列における地位（職位）獲得と結びつくことで従業員に対する中核的なインセンティブを提供してきた。すなわち日本独特の雇用形態である終身雇用、年功序列といった長期にわたる激しい社内競争システムを維持・存続させる上で重要な役割を担ってきた。

資格がインセンティブ機能を発揮するために、こうした資格は組織内の処遇・地位と結びつくことでその価値を保持してきた。しかしながら、資格制度は高度成長期にその機能を良く果たしてきたものの、昨今の低成長下において矛盾を呈するようになってきている。すなわち資格の職位に対する上滑り傾向、資格の細分化、資格間給与格差の縮小、高位資格者の比率の増大傾向など、資格インフレーションの様相を呈するようになってきている。

筆者は事例研究を通じて、こうした傾向を確認した。資格インフレーションの進行にともない、資格のインセンティブ機能の低下が起きていることも事例研究より暗示された。資格制度に体现される漸進的な昇進・昇格システムがもはや機能しえない段階にきていると言える。今後の低成長経済においては、職務を基準とした処遇体系と、漸進的でない昇格機会を有する人事制度が求められることとなるであろう。